

大分川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～近年の気候変動による水害から県都大分市と全国有数の観光地を守るため流域連携によるハード・ソフト対策の推進～

○ 令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、大分川水系においても、由布院盆地や大分平野・県都大分市街地に人口・資産が集中しているため、ひとたび災害が発生すると甚大な被害が想定される特性を踏まえ、築堤及び河道掘削などの事前防災対策を進め、以下の取組を実施していくことで、国管理区間においては、戦後最大の昭和28年6月洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

大分川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～近年の気候変動による水害から県都大分市と全国有数の観光地を守るため流域連携によるハード・ソフト対策の推進～

- 大分川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】 大分市街地等での浸水被害を軽減するため、本川の河道掘削及び排水施設の整備を実施し、また、支川横瀬川の堤防整備を実施するとともに、流域全体での流水の貯留機能の拡大、雨水貯留施設等の対策及び、災害危険区域の検討や立地適正化計画の作成・見直し（防災指針の作成等）、ハザードマップ・各タイムラインの作成・支援等のソフト対策を実施し流域内の被害軽減を目指す。
 - 【中期】 本川中流部の浸水被害を軽減するため、本川中流部の河道掘削・堰改築を実施し、また、支川賀来川の河道掘削を実施するとともに、継続して支川横瀬川の整備、流域全体での雨水貯留施設等の対策及びソフト対策を実施し流域内の被害軽減を目指す。
 - 【中長期】 本川中上流部及び支川七瀬川の浸水被害を軽減するため、本川中上流部の河道掘削・堤防整備を実施し、支川七瀬川の河道掘削・堤防整備や橋梁架替、堰改築を実施するとともに、継続して流域全体での雨水貯留施設等の対策及びソフト対策を実施し流域内の被害軽減を目指す。

■河川対策（約111億円）
 ■砂防対策（約 50億円）
 ■下水道対策（約220億円）

区分	対策内容	実施主体	工程			
			短期	中期	中長期	
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、堤防整備、橋梁架替、堰改築 等	大分県、国土交通省	本川下中上流部掘削	本川中流部・支川賀来川掘削	本川中上流部・支川七瀬川掘削	
			本川中上流部堤防整備	本川中流部堰改築	本川上流部・支川七瀬川堤防整備	
			横瀬川築堤護岸整備、橋梁架替		支川七瀬川橋梁架替、堰改築	
	雨水貯留機能の向上	大分市、竹田市、由布市	住宅・事業所等における雨水貯留施設設置補助継続検討、校庭・公園・公共施設等の貯留施設整備検討			
		大分県	水田の貯留機能向上に向けた普及・啓発			
	下水道対策事業	大分市	下水道等の排水施設の整備			
			災害対策ポンプ施設の整備			
			管きょ整備			
	土砂災害対策	大分県	下水道事業における雨水流出抑制施設の検討			
			砂防関係施設の整備			
			森林整備・治山対策			
	流水の貯留機能の拡大	大分市、大分県	ため池の事前放流に関する可能性の検討、普及・啓発			
		大分市、由布市、大分県、国土交通省	利水ダム等4ダムにおける事前放流等の実施、体制構築			
	被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まい方の工夫	大分市、竹田市、由布市	災害危険区域の検討		
			大分市、竹田市、由布市、（大分県）	立地適正化計画の作成・見直し（防災指針の作成等）、災害リスクを考慮した居住誘導区域の検討		
施設の機能確保		大分市	浄水場や水資源再生センター・公共施設の耐水化等による機能確保			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報の提供・充実	大分市、大分県、国土交通省、気象台	水害監視カメラ・量水標の設置			
			防災情報伝達の多重化の検討			
	避難体制等の強化	大分市、竹田市、由布市、大分県、国土交通省、気象台	小規模河川の氾濫推定図	ハザードマップの作成		
			マイ・タイムラインの作成支援、自主防災組織単位毎のタイムラインの作成支援			
			水防災意識を高める防災教育・防災訓練等の実施			
グリーンインフラの取組	重要種等の保全	国土交通省	重要種等の保全			
	ワンド等の保全	国土交通省	ワンド等の保全			
	礫河原の再生	国土交通省	礫河原の再生			
	連続性の再生	国土交通省		連続性の再生		
	生息・生育・産卵環境の保全	国土交通省、大分県	生息・生育・産卵環境の保全			
	芹川かわまちづくり	大分県	芹川かわまちづくり			
	多様な生態系の保全	大分県	多様な生態系の保全			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

大分川水系流域治水プロジェクト【グリーンインフラ】

～近年の気候変動による水害から県都大分市と全国有数の観光地を守るため流域連携によるハード・ソフト対策の推進～

●グリーンインフラの取組『アユ等の産卵環境等となる良好な河川環境の保全・再生』

- 大分川はアユの産卵場となる早瀬が点在するなど、良好な河川環境により多様な動植物の生息基盤が存在するほか、多様な植生が分布し多くの野鳥が確認され市民が集う野鳥観察の場ともなっており、次世代に引き継ぐべき豊かな自然環境が多く存在しています。
- 大分川の下流部については、アユ等の生息・生育・産卵環境を保全するため、今後20年間で瀬・淵などの良好な河川環境を再生するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進します。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

●治水対策における多自然川づくり

- ・連続性の再生
- ・ワンド、水際環境の再生
- ・重要種等の保全
- ・礫河原の再生
- ・生息・生育・産卵環境の保全

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み

- ・小中学校などにおける河川環境学習



生息・生育・産卵環境の保全



小中学校などにおける河川環境学習



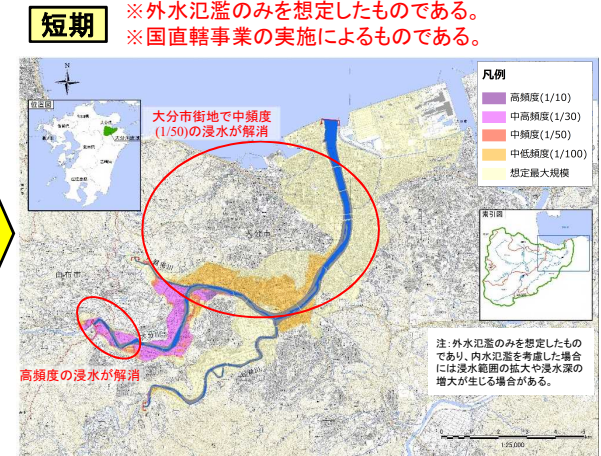
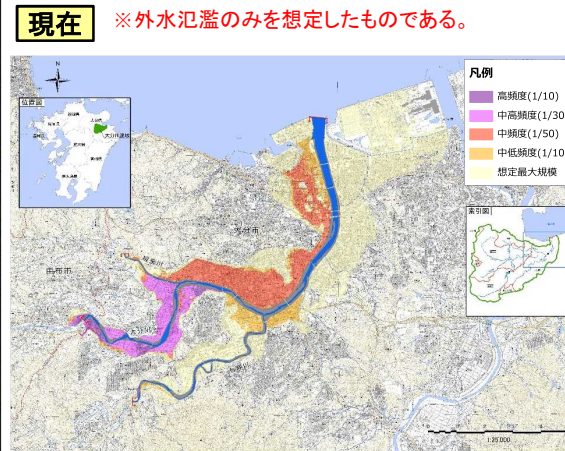
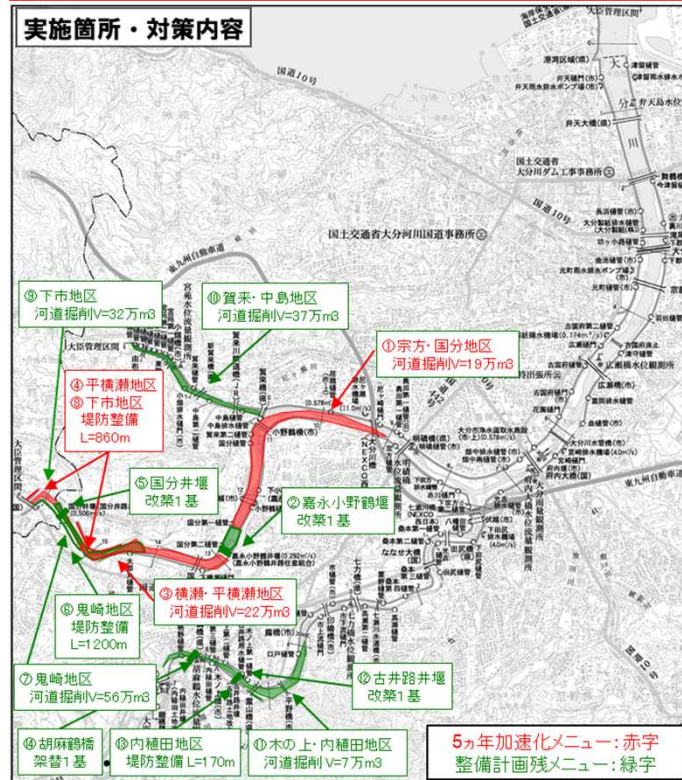
ワンド等の保全

大分川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～近年の気候変動による水害から県都大分市と全国有数の観光地を守るため流域連携によるハード・ソフト対策の推進～

令和2年7月豪雨による浸水被害を受けた、大分川上流部の下市地区等において堤防整備を令和7年度までに完了し、平成5年9月13号台風規模を流下させる治水安全度を確保する。また、賀来川合流点下流については、整備計画目標流量（1/70確率規模）を確保する。

短期整備（5ヶ年加速化対策）効果：河川整備率 約48%→約74%



区分	対策区間			対策内容	工程	
	河川名	エリア	地区名		【5ヵ年加速化対策】 短期(R3～R7年度) 本川中下流 1/30→1/70 本川上流 1/5→1/15 支川 1/30→1/30	中長期(R8～R17年度) 本川中下流 1/70→1/70 本川上流 1/15→1/70 支川 1/30→1/70
関連事業					R3	R12
氾濫をできるだけ 防ぐ・減らすための 対策	大分川	賀来川合流～ 嘉永小野鶴	①宗方・国分地区	河道掘削	80%	100%
		嘉永小野鶴堰～ 国分井堰	②嘉永小野鶴堰	堰改築		100%
			③横瀬・平横瀬地区	河道掘削	30%	100%
			④平横瀬地区	堤防整備	100%	
			国分井堰～天神橋	⑤国分井堰	堰改築	
		⑥鬼崎地区		堤防整備		100%
		⑦鬼崎地区		河道掘削		100%
		⑧下市地区		堤防整備	100%	
		⑨下市地区		河道掘削		100%
	賀来川	-	⑩賀来・中島地区	河道掘削		100%
	七瀬川	-	⑪木の上・内植田地区	河道掘削		100%
			⑫古井路井堰	堰改築		100%
			⑬内植田地区	堤防整備		100%
			⑭胡麻鶴橋	橋梁架替		100%

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

【短期整備完了時の進捗】

- ①宗方・国分地区 河道掘削 0%→80%
- ③横瀬・平横瀬地区 河道掘削 0%→30%
- ④平横瀬地区 堤防整備 0%→100%
- ⑧下市地区 堤防整備 0%→100%

大分川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～近年の気候変動による水害から県都大分市と全国有数の観光地を守るため流域連携によるハード・ソフト対策の推進～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：74%

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



2市町村

（令和3年度末時点）

流出抑制対策の実施



0施設

（令和2年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・泥石流災害対策



治山対策等の
実施箇所 1箇所
（令和3年度実施分）

砂防関係施設の
整備数 1施設
（令和3年度完成分）

立地適正化計画における
防災指針の作成



0市町村

（令和3年12月末時点）

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定
区域 9河川
（令和3年12月末時点）

内水浸水想定
区域 0団体
（令和3年11月末時点）

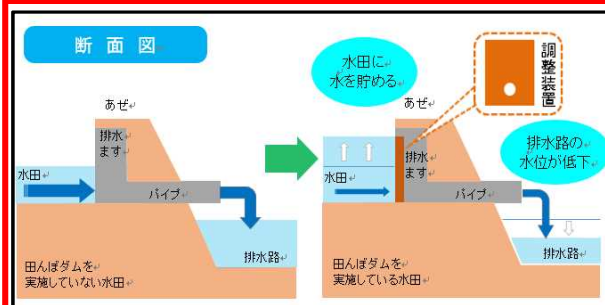
高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保
計画 洪水 707施設
土砂 33施設
（令和3年9月末時点）

個別避難計画 3市町村
（令和4年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



田んぼダムイメージ図



田んぼダム用調整装置

モデルほ場での実証事業の実施（大分県）

- ・県内3箇所のモデルほ場で、複数の調整装置を設置して、最適な調整装置及び水田の降雨時の貯留効果を検証
- ・大分大学と共同で検証を実施

被害対象を減少させるための対策



止水板の設置

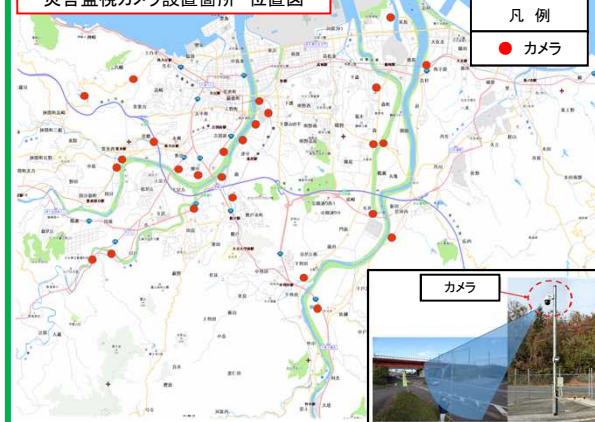


防水シャッターの設置

- ・氾濫による被害を防ぐため、浄水場の浸水対策を実施。（大分市）

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

災害監視カメラ設置箇所 位置図



水害監視カメラの設置（大分市）

台風などの大雨時には、職員などによる浸水状況の把握やパトロールが困難となることから、防災対応に大きな影響を及ぼす恐れがある。市民の安全・安心を確保し、事前防災を進めるため、特に浸水被害が発生する26箇所に水害監視カメラの設置を行い、状況を適宜把握しながら防災対応を行うとともに、リアルタイムな映像を市民に配信することで、自主避難の判断等、的確な避難行動に結びつける。

- 水害監視カメラシステムの主な内容
 - ・カメラの設置箇所数 26箇所
 - ・カメラ映像はライブ映像により常時公開
 - ・夜間でも映像が鮮明に確認できるカメラを使用
- 公開日 令和3年7月5日
- 公開方法
 - ・水害監視カメラシステムホームページ
 - ・YouTube「大分市水害監視カメラ」
 - ・ケーブルテレビ（※災害時のみ放送）